

古墳の上に古墳を造る

庵寺古墳群（大田市、2009年調査）大庭俊次

大田市仁摩町の庵寺古墳群は、仁万平野や日本海を見下ろす標高約 60～80mの小高い山の上に立地します。山陰自動車道（仁摩温泉津道路）の建設に伴い、延べ3ヶ年かけて調査を行いました。調査員だった私は、調査前に古墳の地形測量をするため山に登りました。すると、明らかに古墳とわかる地形の高まりや平坦面が、丘陵尾根筋の上から下まで階段状に続いており、これはたいへんな調査になるなと身震いしたことを覚えています。

調査は丘陵の一番高い位置にある古墳から着手しました。この古墳（1 A号墳）は古墳時代後期後葉（6世紀末）に造られた径約 15mの円墳とみられ、埋葬施設である奥行き 6.5m・幅 2.5mの大きな横穴式石室からは、須恵器^{すゑまき}の他、ガラス玉・管玉^{くだたま}などの玉類^{たま}や大刀^{たち}、刀子^{とっす}、鉄鍬^{てつくわ}など数多くの副葬品^{ふくそうひん}も見つかりました。

幸先のよい発見に続いて、石室の構造や古墳の築造過程を確認するため、石室周辺の盛土を掘り下げたところ、思いもよらぬ発見に遭遇しました。なんと石室のすぐ西隣で石棺が姿を現したのです。この石棺は、副葬品から古墳時代前期末（4世紀末）の別の古墳（1 B号墳）の埋葬施設（第1主体部）であることが判明し、さらに周辺を詳しく精査したところ、石棺の両側にも2つの墓坑（第2・第3主体部）があることも確認できました。ただし、この2つの墓坑は、1 A

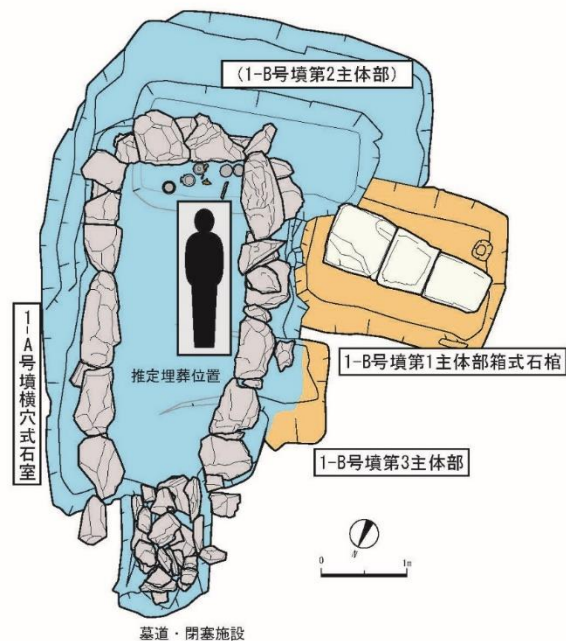


庵寺 1 A号墳の横穴式石室（中央）と
1 B号墳の石棺（右）

号墳の横穴式石室を構築する際に大部分が削られていました。つまり、1 A号墳は、先行する1 B号墳の上に造られていたことが明らかとなったのです。しかも、2つの墓坑を破壊して…。

最終的に、庵寺古墳群では24基もの古墳が見つかりました。石見地方東部においては屈指の規模を誇る大古墳群といえ、その特徴として、細長い丘陵上に大きさが10m前後の小規模な古墳が列をなすように集まっていることがあげられます。さらに、古墳の大部分は古墳時代前期から中期にかけて継続して造られていましたが、古墳の築造は中期後葉（5世紀末）に一旦途絶えたのち、100年近い中断を経て、新たに1 A号墳が丘陵最頂部に単独で君臨するかたちで造られたこともわかりました。このことから、1 A号墳の被葬者は、麓に広がる仁万平野を治めた首長クラスの人物であったと考えられます。

ここで疑問なのは、1 A号墳を造ろうとした場所に、果たして1 B号墳があったことを理解していたかどうかですが、少なくとも横穴式石室を構築する際には、元々そこにあった古墳を破壊していることに気付いたはずですが、1 A号墳の築造者たちは、横穴式石室の奥の壁石を積むために、1 B号墳の第2主体部を掘り返しました。その後、墓坑を埋め戻す際には、もともと副葬されていたとみら



横穴式石室（1 A号墳）と第1～3主体部（1 B号墳）の配置

れる鉄剣を横たえて「地鎮め」としたような形跡もありました。もしかしたら、古墳を破壊した「狼藉」に対する、多少の後ろめたさがあったのかもしれない。

（島根県埋蔵文化財調査センター企画幹）